

(第6条関係)

事業概要書

事業名	子どもたちがつくる青少年会館居場所事業
団体名	だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会
事業担当課	生涯学習推進課 青少年会館

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>昨今、子ども（小学生）は保護者の就労や核家族化等により一人で過ごすことが多く、安心して過ごせる“居場所”が少なくなっている。</p> <p>松戸市社会教育計画策定の際「放課後や休日に小中学生が地域の人と生涯学習活動をするのにふさわしい場所」の調査によると、保護者のニーズとして回答の2/3近くを占める1位として「地域の公共施設」が挙がっており、また「安全」「近さ」といった要素が子どもの活動場所に求められている。</p> <p>このように、今後の松戸市の未来を担っていく人材育成のため、さまざまな体験を通じて仲間をつくり、仲間や地域の人たちと触れ合うことの出来る社会教育の時間と場所が必要とされている。</p> <p>他方、子どもの居場所に関して、「場所（空間）」だけを用意していても子どもたちがなかなか集まってくない、あるいは、学校のクラス数人の人間関係での遊びにとどまってしまう。子どもの成長には「時間」「空間」「仲間」の「サンマ（3つの間）」が大切と言われているが、松戸をはじめとする都心近郊の地域社会では、都市開発や防犯・遊びの産業化による変化によって、「サンマ」が得にくく、身の回りに少なくなっている。</p> <p>そこで本事業では、より仲間を広げたり、地域の人たちとふれあったりするため、体験を通じて子ども同士がつながる取り組みへの必要性に応える、市民と青少年会館が協働する本事業を提案する。</p>
事業の目的	<p>目的を、大きく3つに分けて掲げる</p> <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 小学生同士のつながり・仲間づくりを目指す「サンマ」の提供</li><li>(2) 子どもに関わる担い手育成による持続的なコミュニティ形成</li><li>(3) 青少年会館という拠点を核とした世代間交流</li></ul> <p>青少年会館（松戸市新松戸南2-2）で、小学生を対象とする放課後体験プログラムと、ロビーワークをセットで実施し、子ども同士のクラス・学年を超えた交流と仲間づくり、また、近隣高校・大学生との交流や、青少年会館利用団体の関係者を中心とした、大人との体験を通じた交流を図り、仲間づくり、社会教育の機会提供に努める。</p>
事業内容	<p>[1] 子どもに関わる担い手育成プログラム</p> <p>外部講師を招き、子どもの発達・育ちと体験の関係や、人権教育を含んだ、勉強会を実施する。また、それに合わせて将来子どもと関わっていききたい学生（高校生～大学生）を地域から募り、夏休みのプログラムに向けたボランティア募集を進める。</p> <p>[2] 子どもとの体験プログラム&amp;ロビーワーク</p> <p>会館の事業スケジュールを下地に、3つの時期に分けて事業を実施する。各期間、週2回程度、放課後時間帯を中心に予定している。</p>

	<p>①夏休み期間</p> <p>7月下旬～8月末にかけて、中庭をつかった外遊びや、一部に調理体験などを織り込んだプログラムを実施。また、季節感あるイベントを実施する。</p> <p>②11月初頭に開催の文化祭に向けて</p> <p>③2月末開催のアートパフォーマンス祭りにに向けて</p> <p>小学生が学生と一緒にお祭りのブース出展（例えば、迷路やお化け屋敷など）を、子どもたちの意見を中心に企画する。</p> <p>また、青少年会館をよく利用する団体、例えば、演奏団体・演劇団体・版画等芸術団体と連携・協働し、居場所づくりや体験プログラムを通じて、地域の大人との交流、自然には進みにくい同じ「場」の利用者間の交流を図る。</p> <p>※なお、事業回数については要項より少ないが、相談会にて協議した内容を元に、本提案にまとめている。</p>
協働の必要性	<p>これまで青少年会館では多様な講座（青少年教室）を実施しているが、会館の日々の利用の中で、なかなかロビーにいる小学生への関わり（ロビーワーク）が気になっていても関係づくりまで事業化できていなかった。</p> <p>本事業の提案者「だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会」は、市内の子どもに関わる事業を展開しているNPOが連携・協働している団体である。松戸市内の子どもたちに向けたイベントを年1回のペースで開催して来たが、各団体が特色のある遊び（エコトンボづくり、新聞の海、皿回しなど）を持っていたり、学生～若者に依る企画や、当日学生ボランティア（前回実績100名超）の運営に強みを持っていたりする。</p> <p>これまでの当フェスティバルや、個別の団体ごとの連携・協働はあったが、多様なプログラム・担い手の特性を組み合わせ、かつ地域の学生・大人を巻き込んだコミュニティづくりは、青少年会館という場所と、各団体のプログラム・ソフトを組み合わせこそ実現でき、行政・NPO双方が目指す子どもの育ち、次世代育成のコミュニティ形成につながると考えている。</p>
事業の目標	<p>[1] 子どもに関わる担い手育成プログラム</p> <p>50名定員の講演会を実施し、継続的に本事業に加わるボランティアを8名程度確保する。</p> <p>[2] 子どもとの体験プログラム&amp;ロビーワーク</p> <p>定期的に参加し、興味を持つ小学生、互いの「顔が見える」関係の参加者が10人程度となるよう、支えていく。</p>

(第6条関係)

## 事業の予算概要

【労力換算（限度額算入）】

(単位:円)

区分	科目	金額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 154,000	

【収入】

区分	科目	金額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 3,000	対象事業費の一部を団体の会計より拠出
	小学生実費負担	¥ 10,000	
	自己資金の合計額 (B)	¥ 13,000	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 117,000	
	合計額(D)=(B+C)	¥ 130,000	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 50,000	講演研修会講師謝礼
	消耗品費	¥ 50,000	模造紙・付箋紙等会場掲示物作成、コピー用紙等
		¥ 10,000	調理体験・食材
	印刷製本費	¥ 10,000	チラシ(カラー表裏) 3000枚
		¥ 10,000	研修&ボランティア募集3000枚
	対象経費の合計(E)	¥ 130,000	
(その他経費)			
	その他経費の合計額(F)	¥ 0	
	合計額(G)=(E+F)	¥ 130,000	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×500円
	会館との打ち合わせ (10回)	20,000 円	2 人 × 2 h × 10 回 × 500 円
	講師打ち合わせ	8,000 円	2 人 × 4 h × 2 回 × 500 円
	夏休み子ども活動日	60,000 円	2 人 × 6 h × 10 回 × 500 円
	平日子ども活動日	48,000 円	2 人 × 4 h × 12 回 × 500 円
	チラシ・報告書制作	6,000 円	1 人 × 6 h × 2 回 × 500 円
	報告書制作	12,000 円	2 人 × 4 h × 3 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
	合 計 (A)	154,000 円	